

138億余年目のお正月

新しい一年が始まりました。平成で言えば30年。西暦では2018年。少し視点を変えて見ると、地球が誕生して45億年余り。宇宙ができてからは138億年余りたったお正月です。気の遠くなるような時間の長さですが、当然地球や宇宙にも始まりがあり、経年が数えられるのです。

こんなことを考えているのは、昨年11月に開館1周年を迎えたことも未来館の佐藤勝彦名誉館長による「ビッグバン宇宙創生のインフレーション理論」と題された記念講演を聞いていたからかも知れません。現代の科学的知見では、ビッグバンによる宇宙の開闢（かいびやく）は138億年前とされています。少し前まで137億年前だとされていましたが実証研究が進み、1億年延びたのだそうです。久遠の時間を前に立ちすくむような気がするとともに、観測により、それが1億年単位で訂正されたことに驚きを禁じえません。

また、昨年のノーベル物理学賞は、宇宙の始まりに関連する重力波の観測を世界で初めて行ったアメリカの3人の科学者が受賞しました。重力波は、100年前にアインシュタインがその存在を予言していたものです。同時に佐藤先生らが予測したビッグバン直後の宇宙の急激な膨張を仮定したインフレーション理論を裏付けるものでもあります。

「宇宙では遠くを観測すれば過去が見える」そうです。なぜなら私たちが今見ている空（宇宙）は、何千年、何万年も、さらには何億年も前に放たれた光や電波で満たされているからです。我々人類がいる地球から、光の速さで138億年かかる距離にあるところを観測することができれば、それが宇宙の開闢の状態であるということです。ビッグバンによって誕生した直後の宇宙の痕跡が、138億光年というはるかかなたに存在しているはずなのです。

宇宙の話聞いて、私の好きな谷川俊太郎の「二十億光年の孤独」という詩を思い出しました。その最後は次のように締めくくられています。

宇宙はどんどん膨らんでゆく
それ故みんなは不安である
二十億光年の孤独に
僕は思わずくしゃみをした

宇宙の何処かで誰かが何かを噂しているのかも知れません。宇宙はまだまだ神秘に満ちています。